

月旬	3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上

病害虫防除	基幹防除	種子消毒 テクリードC フロアブル 200倍 24時間浸透 (散布日 月 日)	箱予防 ダコレート水和剤500倍 (散布日 月 日) ダコレート100g →水50ℓ →苗箱100枚 (散布日 月 日)	カメムシ防除 畦畔・雑草地 除草	無人ヘリ防除(2回)
	異常発生防除	苗立枯病 タチガレエースM液剤500倍 (散布日 月 日) タチガレエース100cc →水50ℓ →苗箱100枚	紋枯病(常発地) リンパー粒剤 3~4kg/10a (散布日 月 日)	葉いもち ブラシン粉剤DL 4kg/10a (散布日 月 日)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ トレボン粉剤DL 3kg/10a (散布日 月 日)

① 一般的な体系処理

代かき → 田植

- クラール粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)
- マーシエット粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)
- 田植直後~5日
- バッチリLX粒剤 1kg/10a (散布日 月 日) 田植後 5日~20日
- ガンガン粒剤 1kg/10a (散布日 月 日) 田植後 5日~20日
- シリウスエグザ粒剤 1kg/10a (散布日 月 日) 田植後 5日~20日

※初期剤を使わず一発処理可能。田植後15日頃までに。

② 省力除草方法 (動力散布機を使用しない)

代かき → 田植

- バッチリジャンボ 400g/10a (散布日 月 日) 田植後 ~20日
- シリウスエグザ顆粒 80g/10a (散布日 月 日) 田植後 ~20日

代かきから田植まで7日以内

止め水一週間! にしてください!!

③ 田植同時

代かき → 田植

- バッチリLX粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)
- シリウスエグザ粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)
- ガンガン粒剤 1kg/10a (散布日 月 日)

代かきから田植まで7日以内

止め水一週間! にしてください!!

※強風時には田植と同時に散布を行わない。田植機に専用散布機が必要。

〈省力化一発体系〉

肥料名	施肥量 (10a)	N	P	K
基肥 BBコシー発くん1号	35~40kg	7.0~8.0kg	7.3~8.4kg	4.9~5.6kg
基肥 けい酸アップ・コシー発くん ※施肥量は通常の1.3倍となります。	45~53kg	6.75~7.95kg	6.75~7.95kg	4.5~5.3kg
中間追肥 珪酸加里プレミア	40kg	—	—	8.0kg

〈分施肥体系〉

肥料名	区分	施肥量 (10a)	N	P	K	
基肥	BB056号	全層	30~40kg	3.0~4.0kg	7.5~10.0kg	4.8~6.4kg
	BB003号	側条	30~40kg	3.0~4.0kg	6.0~8.0kg	4.6~5.2kg
中間追肥	珪酸加里プレミア	全層	40kg	—	—	8.0kg
穂肥	BB有機入り いしかわライト550	穂肥1回目 (出穂前18日)	13kg	2.0kg	0.7kg	1.3kg
		穂肥2回目 (出穂前10日)	17kg	2.6kg	0.9kg	1.7kg
	合計	30kg	4.5kg	1.5kg	3.0kg	
有機入りいしかわ穂肥一発055	穂肥1回施用 (出穂前18日)	25kg	5.0kg	1.3kg	3.8kg	

3月 うまい・きれい米づくりのスタートです。

☆営農のポイント

- ・種子消毒
テクリードCフロアブル 200倍 24時間浸漬
- ・浸種
水温と浸種期間

水温	7℃	10℃	15℃
浸種期間	18日間	13日間	9日間

- ・催芽
催芽温度 30℃
催芽程度 芽が1mm程度で、揃っている。

7月 生育環境を良くし、良質穂をつくる。 紋枯病に注意

☆営農のポイント

- ・穂肥 第1回穂肥診断の目安(出穂18日前)

	葉色	葉の状態	施用時期	施用量
条間が手前から30~50mくらいまで見える	3.4以下	立つひらつく	早く(5~8mm) やや早く(10mm)	標準量
	3.5	立つひらつく	標準(1.5cm) 遅く(2~3cm)	標準量
	3.6以上	立つひらつく	標準(1.5cm) 遅く(2~3cm)	減らす
条間が見えない	3.4以下	立つひらつく	標準(1.5cm) 遅く(2~3cm)	標準量
	3.5	立つひらつく	標準(1.5cm) 遅く(2~3cm)	減らす
	3.6以上	立つひらつく	標準(2~3cm) 無施用	減らす 無施用

- ・水管理
中干し後、3~4日間ごとに通水(間断通水) フェーン時には通水し、水分補給する。 夜間通水し、稲体の活力維持に努める(高夜温が続く場合)
- ・病害虫防除
葉いもち、紋枯病の発生に注意
葉いもち…ブラシン粉剤DL 4kg/10a
紋枯病…リンバー粒剤 3~4kg/10a
稲こうじ病…Zボルドー粉剤 3~4kg/10a
- ・畦畔・農道除草(カメムシ類対策)
集落ぐるみで行う。(7月10日まで)



幼穂形成期にはキチッと穂肥の入る「うち(条間)」の見える稲に仕上げよう。



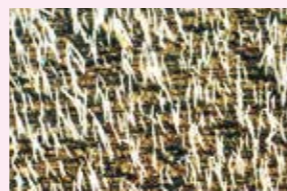
最近多発しているカメムシ

アカヒゲホソミドリカメムシ(成虫)

4月 米づくりは苗づくりから。

☆営農のポイント

- ・播種
播種量 120g/箱



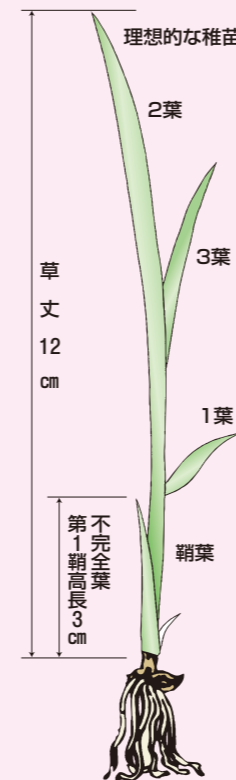
120g播きで健苗育成

・育苗管理

	温度管理	灌 水
緑化期(1~3日後)	・昼20~25℃ ・夜15~20℃以上	・覆土の持ち上がりや箱のSMが白く乾いた時だけ灌水する。
硬化期前期(4~9日後)	・昼20℃前後 ・夜10℃以上	・午前10時頃までに行う ・晴天の日の朝は十分に行う ・雨天の日は床土の乾き具合に応じて
硬化期中期(10~15日後)	・昼15~20℃ ・夜10℃以上	・朝方ムラなく十分に行う
硬化期後期(16日~)	・外気温にならず 田植え8~10日前	・床土が乾きやすいので、朝昼2回必要な場合があるので注意。
田植え4~5日前	・夜間も換気	

※()内はハウス搬入後日数

5月 苗づくりから稲づくりへ。



☆営農のポイント

- ・田植時
田植えは、5月に入ってから行う。 植付株数60株を基本とする。 植付本数3本~4本とし、1~2本の株があっても補植しない。
- ・田植直後
植傷みを防ぐため、すみやかに深水管理とする。
- ・活着後
低温・強風時以外は浅水管理とする。
- ・田干し
5月下旬の温暖な日に2~3回落水する。
- ・溝切り準備
5月末に溝切り準備にとりかかる。

中干しは早めに!!(13~15本/株が開始時期) 出来過ぎは、乳白、倒伏の要因!!

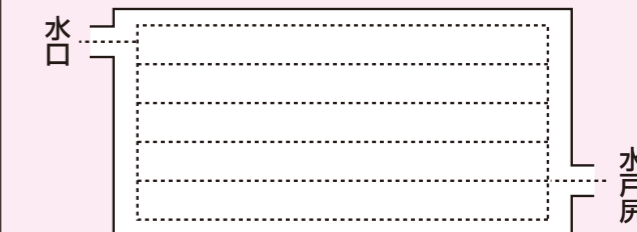
6月 今月が勝負どころ。

☆営農のポイント

- ・溝切り
6月3日頃から溝切りスタート



溝切りは、入水落水を容易にします。



※必ず溝は水口水戸尻を結び

- ・中干し
7月5日頃まで中干しを続ける。

- ・珪酸加里の施用
稲体の健全化のため、珪酸加里を40kg/10a施用する。

- ・畦畔・農道の除草
カメムシ類の生息場所をなくす。



トゲシロホシカメムシ(幼虫)

8月 葉・茎・根の活力が決め手です。

☆営農のポイント

- ・水管理
出穂後は、「1日通水後、2~3日落水」を繰り返す。 圃場では、少し足が沈む程度の湿潤状態を保つ(飽水管理) フェーン時や強風時は、早急に入水する。 地域ぐるみで計画的な通水に努める。

圃場の過乾燥は、着色米の要因!! こまめな水管理を!!

9月 うまい・きれいの総仕上げ。

☆営農のポイント

- ・水管理
刈り取り5日前まで、通水管理を続ける。
- ・適正な乾燥調整
乾燥中の穀温35℃以下を目安
こまめに水分を測定
肌ずれ米防止(水分過多や高温物は粉ずりしない)
適正な網目を使用(1.90mm LL網)



10月 稲刈りあとから始まります。

☆営農のポイント

- ・土づくり(10月中旬までに耕起)
稲わらの全量鍍込み(稲わら600kgは、堆肥1tに相当)

「売れる米」づくりは土づくりから!!

BBコシー発くんは、省力化肥料ですが、穂肥の肥効部分には、リン酸・カリが含まれていません。 毎年施用すると地力低下を招きますので、必ず収穫後は土づくりを実践して下さい。

肥料名	施用量(10a)
ダイナマイトソイル	100Kg
パワフル大地	60Kg

深耕(15cmをめざす)

【畦畔で使用可能な除草剤一覧】 現在

除草剤名	水 稲		
	耕 起 前	生育期間中	収 穫 後
ラウンドアップマックスロード	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起20~10日前	収穫前日まで
タッチダウンIQ	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起5日前	収穫14日前まで
サンフーロン	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起20~10日前	収穫14日前まで
ザクサ液剤	登録有無	○	○
	使用回数	1回	2回
	使用時期	耕起前	収穫7日前まで
ブリグロックSL	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注2	5回
	使用時期	耕起1ヶ月~直前	雑草生育期
カーメックス顆粒	登録有無	○	○
	使用回数	X	1回
	使用時期		雑草発生前
MCPソーダ塩	登録有無	○	○
	使用回数	X	3回
	使用時期		収穫14日前まで

※注1: ラウンドアップマックスロードとタッチダウンIQ、サンフーロンには同一成分が含まれていますので、3割合わせての回数です。
※注2: ブリグロックSLは、収穫後もしくは耕起前のどちらか1回使用可。